

富津市健康づくり推進協議会会議録

1 会議の名称	富津市健康づくり推進協議会
2 開催日時	平成29年7月24日(月) 15時00分～15時58分
3 開催場所	富津市役所4階 401会議室
4 審議等事項	(1) 平成28年度事業実績について (2) 平成29年度事業について
5 出席者名	岡根茂会長、田中治実副会長、小泉義行委員、 能城美佐子委員、大野泰代委員、永井敏子委員、 雨笠正昭委員、小泉定男委員、佐久間文明委員、 井戸義信委員、渡邊まさ子委員 島津健康福祉部長、下間健康づくり課長、藤寄健康 づくり課長補佐、栗本健康づくり課副主幹、佐藤主 査、鹿島主査、圓川主査、鈴木主任管理栄養士
6 公開又は非公開の別	公 開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0人
9 所管課	健康福祉部健康づくり課
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

富津市健康づくり推進協議会会議録

	発 言 内 容
藤寄補佐	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の宣言
島津部長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員紹介 ・ 事務局紹介
藤寄補佐	<p style="text-align: center;">本日の会議の内容は、富津市情報公開条例第23条の規定により公開となる。傍聴人はいない。</p> <p style="text-align: center;">14名の委員のうち出席者11名で過半数を超えているため、富津市健康づくり推進協議会設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立する。</p> <p style="text-align: center;">会長に挨拶をお願いします。</p>
岡根会長	挨拶
藤寄補佐	<p style="text-align: center;">議事の進行については、富津市健康づくり推進協議会設置要綱第6条第1項の規定により、会長が議長となる。</p> <p style="text-align: center;">岡根会長には議長席をお願いします。</p>

<p>岡根議長</p>	<p>議事に入る前に、会議録署名委員を私から指名させていただく。</p> <p>会議録署名委員に雨笠委員、井戸委員のお二方をお願いする。</p>
<p>雨笠委員</p>	<p>了解した。</p>
<p>井戸委員</p>	<p>了解した。</p>
<p>岡根議長</p>	<p>それでは、次第3の議題に入る。</p> <p>(1)の「平成28年度事業実績について」を議題とする。事務局の説明を求める。</p>
<p>下間課長</p>	<p>平成28年度事業実績について説明する。</p> <p>健康づくり課の事業として、(1)健康増進事業、(2)母子保健事業、(3)予防接種事業、(4)がん検診、(5)栄養改善事業、(6)献血事業、(7)自殺対策推進事業、(8)特定健康診査等事業がある。これらについて説明する。</p> <p>なお、(8)特定健康診査等事業は昨年まで国民健康保</p>

険課の所管だったが、今年度から健康づくり課所管となった。

会議資料 2 ページ

(1) 健康増進事業の 1 健康診査だが、健康増進法による 40 歳以上の医療保険未加入の方を対象とした健康診査である。平成 28 年度は、対象者 147 名に対し、24 名が受診し、受診率は 16.3%であった。

次の若年健康診査は、18 歳から 39 歳までの市民で、勤務先で受診の機会のない方、国民健康保険加入者や社会保険の扶養者を想定して市が独自で実施している。特定健康診査は 40 歳から始まるので、その前から生活習慣病の発症を予防しようとするもので、407 名が受診した。

次に、肝炎ウイルス検診であるが、C 型肝炎、B 型肝炎の検査を実施した。40 歳以上の方が対象で、40 歳から 70 歳までの 5 歳毎の方に、はがきにより受診勧奨し、659 名が、また勧奨者以外では 5 名が受診した。これは肝炎ウイルスに関する正しい知識の普及等を目的に実施している。

会議資料 3 ページ

健康教育・健康相談だが、生活習慣病予防の理解を深め

るとともに、健康的な日常生活が送れるよう健康や栄養に関する教室などを開催した。

①の健康教育だが、結果説明会は、8回開催し310名の参加があった。出前講座等は、15回開催し504名の参加があった。健康栄養教室は5回開催し56名の参加があった。

なお出前講座の開催数は前年度より減少しているが、出前講座は市民から開催依頼があつて開催するという性質のためである。

②の健康相談だが、健康診査受診者を対象にその結果を基に保健指導を1,226名に行った。また、生活習慣病予防の食事相談を行う栄養相談は111名に実施した。

訪問指導であるが、疾病予防のため、必要に応じて保健師または栄養士が各家庭に訪問した。平成28年度は464名、延べ550回の訪問を実施した。

会議資料4ページ

(2) 母子保健事業であるが、妊娠中の栄養、乳児の離乳食、幼児の食事、乳幼児の生活指導、保健指導を行い、母子の健全な成長を図るための支援を実施した。

母子相談であるが、実施回数、人数については、記載の

とおりである。月齢に沿って細かく開催し、保健師や栄養士が機会ごとに声をかけ、参加者を増やし、母子が孤立しないよう支援を行った。

次の妊婦乳児健康診査であるが、健康な妊娠、出産を迎えるため、医療機関で行う健康診査に受診券を発行し補助を行うものである。

妊婦健康診査は14回で、延べ2,457名。乳児健康診査は2回で 延べ293名の受診があった。

次に、1歳6か月児健診、3歳児健診であるが、これらは母子保健法に基づき行っているもので、1歳6か月児健診は受診者214名で、受診率90.3%、実施回数は9回である。3歳児健診は受診者209名で、受診率85.7%、実施回数は9回である。健診を受けるという認識のない方や2人目3人目だから受けないという方もいるが、保健師が電話などで呼びかけることで、参加者は前年より増加している。

次に、母子保健訪問指導等であるが、妊娠、出産・育児がそれぞれの過程で健全に行われるよう、保護者の支援を目的に母子保健指導を実施している。延べ人数で妊産婦360名、新生児157名、乳幼児256名を訪問した。

会議資料5 ページ

(3) 予防接種事業についてだが、予防接種は、予防接種法に基づき、感染の恐れがある疾病の発生及びまん延を予防するため実施しているもので、実績は一覧表に示したとおりである。なお上から3段目のB型肝炎は、平成28年10月から定期接種となっている。

会議資料6 ページ

(4) がん検診であるが、8ページの大腸がんまでの項目について、国の指針に基づき行っている。

まず、胃がん検診であるが、40歳以上の市民を対象に7月から12月にかけて胃部X線間接撮影（バリウム検査）を実施したもので、552名が受診し、受診率は3.2%である。

次に、子宮がん検診であるが、20歳以上の女性を対象に、医療機関での個別検診では4月から1月まで、集団検診では7月に実施し、個別で768名、集団で252名が受診し、受診率は、8.4%である。

次に、乳がん検診であるが、30歳以上の女性を対象に、11月に超音波検査とマンモグラフィ検査を行い個別で46名、集団で1,363名が受診し、受診率は12.3%

である。

次の結核・肺がん検診であるが、40歳以上の市民を対象に胸部X線撮影を行ったものである。3,694名が受診し、受診率は21.1%である。

次に、喀痰検査であるが、肺がん検診を受診した方の中で、喫煙指数が600以上の該当者に検査を行うもので、97名が対象となり、51名が受診した。受診率は52.6%である。

会議資料8ページ

大腸がん検診であるが、5月から12月にかけて、40歳以上の市民の方を対象に、便潜血反応検査を実施し1,184名が受診し受診率は6.8%である。

各種のがん検診については、乳がん検診以外は受診者が減少している。子宮がん検診は21歳に達する者に、乳がん検診は41歳に達する者に自己負担が無料となるクーポン券を送付、他のがん検診は対象となる40歳に勧奨の手紙を送付し検診を促したが、今後は対象年齢となる40歳に限らず個別の受診勧奨通知を検討し、受診者数を増やしていきたい。

次に、(5) 栄養改善事業である。

食生活改善推進員の資質向上のための栄養教室やわくわく栄養教室を開催した。また市の管理栄養士と食生活改善推進員の協働で食生活改善事業を市民に対し実施した。

栄養教室であるが、食生活改善推進員に対する情報提供、技術指導等で10回開催し、延167名の参加があった。

わくわく栄養教室であるが、食生活改善推進員を養成するための教室で隔年で行っており、10回開催し93名の参加があった。

次に、推進員活動支援であるが、産業まつり等のイベントや健診会場等で、推進活動の支援を行ったもので、54回開催し344名の参加があった。

次に、食生活改善事業であるが、一般市民を対象に健康づくり教室の開催や地区のイベントの参加など、5回開催し308名の参加があった。

次に、食育教室であるが、富津小での食育教室と子どもチャレンジ教室で小学生への指導を行ったもので、62名の参加があった。

次に、(6) 献血事業であるが、事業主体は日本赤十字社千葉県赤十字血液センターで、移動採血車の日程を調整

し、市役所の他、市内の事業所等に協力を依頼し実施した。

医療技術の高度化や輸血を多く必要とする高齢者の増加により輸血用血液の重要は年々増えている。市では毎年目標を掲げ実施しており、平成28年度も目標を上回り、200mlの献血者78名、400mlは1,025名から協力をいただいた。

次に、(7)自殺対策推進事業であるが、自殺対策を総合的に推進するため、市民一人ひとりの気づきと見守りを促すことの周知や自殺予防の啓発を実施した。

会議資料9ページ

(8)特定健康診査等事業であるが、国民健康保険加入者の健康の保持増進と、医療保険制度の安定な運営のために「高齢者の医療の確保に関する法律」に規定され義務づけられたもので、特定健康診査と特定保健指導事業を「第二期特定健康診査実施要領」に基づき行った。

1の特定健康診査事業は、40歳以上74歳までの国保加入者が対象で、糖尿病などの生活習慣病予防のためメタボリックシンドロームに着目した検査内容で、更に、慢性腎臓病などの予防のためヘモグロビンA1cなどの検査を国の項目に追加して行った。期間は5月から8月まで、

	<p>自己負担は500円、ただし70歳以上と非課税世帯の方は無料である。受診者数は集団健診3,643名、個別健診1,285名で合わせて4,928名であり、受診率は42.66%である。</p> <p>2の特定保健指導事業は、特定健診の結果から保健指導が必要となる者を抽出して行うもので、腹囲が基準以上の方や、基準より少なくともBMIが高い者を対象に「動機付け支援」と、更に基準値が高い項目が多い者に「積極的支援」を実施した。実施者は合わせて308名、実施率は62.47%である。</p> <p>特定健康診査の受診率と特定保健指導実施率は、県内のランキングで上位に位置しているが、今後も特定健康診査の受診者を増やし、生活習慣病や慢性腎臓病などの予防に努め、市民の健康を守っていきたいと考えている。</p> <p>以上で健康づくり課の平成28年度事業実績についての説明を終わる。</p>
岡根議長	これより質疑に入る。質問、意見等を求める。
佐久間委員	会議資料3ページに出前講座とあるが、前年度と比較し

	<p>回数が減っている。市民からの依頼で実施していると説明があったが、どういう市民を対象とし、どういう内容で実施したのか。</p>
下間課長	<p>企画課で取りまとめている出前講座事業の一般市民が対象であり、健康づくり課では、健康づくりに関すること、母子保健に関すること、栄養に関することが内容となっている。</p>
佐久間委員	<p>15回というのは、健康づくり課に係るのが15回ということか。</p>
下間課長	<p>そうである。</p>
佐久間委員	<p>28年度では回数が減っているが26年度以前はどうだったのか。</p>
下間課長	<p>26年度は23回であった。地域によって何年かに1度依頼が有るところもあり、依頼回数はまちまちである。</p>

岡根会長	依頼があってから実施するものか。
下間課長	依頼があってから出向いている。
佐久間委員	出前講座の活動については、待ちではなく、こちらから働きかけるべきであり、工夫が必要である。
下間課長	検討する。
岡根会長	他にあるか。
渡邊委員	受診率等に割合が記載されているが、これがどの位の位置なのか、健康に関し市民はどのくらい関心があるのか分かる数値は示せないのか。また、10ページの動機付け支援とか積極的支援とあるが具体的にはどのような活動をしたのか。
下間課長	受診率についてだが、がん検診は国の目標は40%であるが、それに対し富津市では目標に至っていない。手元に資料はないが、県内の比較では低い受診率であると認識し

	<p>ている。特定健康診査については、平成27年度の数字で、県内では11位で受診率は41%、1位の受診率は52.4%であった。特定保健指導実施率の60%は県内1位の実施率である。</p>
<p>栗本副主幹</p>	<p>どちらも特定保健指導であり、イメージがつかめるようシンプルに説明すると、メタボリックの方への支援が積極的支援、その予備軍が動機づけ支援である。これらについては、対象者の検査データが改善するよう、内臓脂肪を減らし生活習慣の修正を図ったり、治療が必要な者については医療に繋げている。</p>
<p>渡邊委員</p>	<p>個別的に検証し継続指導を実施しているか。</p>
<p>栗本副主幹</p>	<p>検査データを個別に検証し、背景にある生活習慣との関連、理解を図った中で、医療に繋げたり、継続指導を実施している。</p>
<p>下間課長</p>	<p>先ほどのがん検診受診率の補足だが、平成28年度の近隣市の状況は、全対象年齢での人口割合の受診率では、富</p>

	<p>津市は胃がん検診 1.8%、大腸がん検診 3.8%、肺がん検診 11.7%、子宮がん検診 5.1%、乳がん検診 6.5%、合計では 5.8% という受診率になる。合計での他市の受診率は、袖ヶ浦市 13.3%、次いで君津市 9.7%、木更津市 5.6% であり、富津市と木更津市が低い状況である。君津地域 4 市とも国の示す目標より低く、課題となっている。</p>
<p>岡根議長</p>	<p>他に質問はあるか。</p> <p>なければ議題（２）、平成 29 年度事業について、事務局の説明を求める。</p>
<p>下間課長</p>	<p>会議資料 12 ページ</p> <p>健康増進事業については、健康増進法に基づき健康保険未加入者及び若年層の健康診査を実施し、併せて保健指導や健康教育、健康相談、訪問指導を行うことで、生活習慣病の発症予防や重症化予防を図っていく。また、肝炎ウイルス検診を実施し、肝がんや肝硬変の発症防止を図る。また、成人歯科健診を平成 29 年度から実施し、高齢期の歯の喪失予防を図る。予算額は 9 百 23 万 1,000 円であ</p>

る。

次に、母子保健事業であるが、母子の健康保持増進を図るため、母親及び乳幼児に対する健康診査、保健指導を実施する。予算額は、2千5百61万円である。なお、母子健康手帳を健康づくり課で保健師が面接にて発行することで、妊娠期から保健師が関わり、出産、乳幼児期の健診等包括して支援しており、母子保健法で規定されている「子育て世代包括支援センター」の機能を果たしている。

次に予防接種事業は、予防接種法及び感染症法に基づき、感染症の流行を予防し市民の健康維持を図る。予算額は、8千64万6,000円である。

会議資料13ページ

がん検診事業であるが、がんによる死亡者数を減少させるため、各種がん検診を実施し、受診率の向上を図り、がんの早期発見に努める。子宮がん、乳がん検診については、該当年齢者に無料クーポン券を送付し受診勧奨を行う。予算額は、2千7百72万円である。

次に、食生活指導事業であるが、平成28年度は、栄養改善事業という名称で行っていたもので、市民の健康増進のため、各種健康づくり教室や栄養相談を開催し、生活習

慣の改善指導を行う。予算額は、31万8,000円である。

次に、献血事業であるが、地元協力団体を軸として一層の啓発と献血の推進を図かる。予算額は5万3,000円である。

次に、特定不妊治療費助成であるが、平成29年度からの事業であり医療保険の対象とならず、高額な医療費が必要となる特定不妊治療を受けた夫婦に対しその治療費の一部を助成する。予算額は、2百50万円である。

会議資料14ページ

休日在宅当番医事業であるが、休日でも市民の健康を守るため、地元医師会の協力を得て輪番制により実施する。また、歯科医師会の協力を得て年末年始の歯科在宅当番医事業を実施する。予算額は、2百5万円である。

次に、君津中央病院組合負担金であるが、君津中央病院は君津地域4市を構成団体として運営され、地域医療の中核をなしている。その負担金であり、予算額は、2億6千9百62万4,000円である。

次に、広域市町村圏事務組合負担金であるが、夜間の急病に対する医療体制として設置されている君津郡市夜間

急病診療所の運営費、また、休日と夜間に直ちに入院治療を必要とする患者へ対応する二次待機施設の運営費等に対する負担金で、予算額は、3千1百87万6,000円である。

会議資料15ページ

特定健康診査等事業である。被保険者の健康の保持増進を行うとともに医療保険制度を安定的に存続させるため『高齢者の医療の確保に関する法律』の規定により医療保険者に義務付けられたもので『第二期富津市特定健診等実施計画』に基づいて実施する。

今年度からどの年齢でも集団健診方式と個別健診方式を選択することが出来ることとし、また、3年継続受診者には市のゴミ袋を進呈して、受診率の向上を目指す。

予算額は特定健康診査が4千8百59万6,000円、特定保健指導が80万円である。

28年度の実績で説明したが、各種のがん検診については、乳がん検診以外のがん検診の受診者が減少した。平成29年度は始まって間もないが、肺がん検診が若干減少している。40歳から対象となるので今年度40歳になる方には受診勧奨の手紙を送付したところであるが、なかなか

	<p>効果が現れないこともあり、来年度に向けて、40歳に限らず個別勧奨の手紙を郵送するなど検討していきたいと考えている。また、特定健康診査も今年度半分日程が終了した段階で受診者が若干名減少している。区長に働きかけるなど受診者の増加に努めていきたいと考えている。</p> <p>以上で、平成29年度健康づくり課の実施事業についての説明を終わる。</p>
岡根議長	<p>質疑に入る。質問、意見はあるか。</p>
佐久間委員	<p>要望であるが、健康を害するリスク、ファクターが見えてくる中で、タバコの喫煙の話が前々からある。是非喫煙を減らす指導をお願いしたい。</p>
岡根議長	<p>他に質問はあるか。</p>
渡邊委員	<p>親が40歳というと子どもの年齢は中学、高校生ぐらいと思うが、その年齢の子ども達に特定健診などの周知を図ればいいのか。個別の勧奨もいいが、子どもを通してのPRとか、他の機関との連携による取組みもいいのかと</p>

	思うが。
岡根議長	色々な機関との連携による取組みという意見であるが。
下間課長	検討する。
岡根議長	他に意見等はあるか。
永井委員	29年度からの事業で特定不妊治療費助成事業とあるが、10万円の助成がでるというものか。
下間課長	千葉県で実施している事業で15万円の助成が有り、県の助成決定通知を持って市に申請した中で、総治療費から県の助成額分を控除し、控除後の額の2分の1のうち、10万円を限度として助成をするものである。
永井委員	この事業について知らなかったがPRはしているのか。
下間課長	周知は図っているが、足りないと認識したので、これからもPRしていきたい。

岡根議長	最後のページに市の指定袋10枚1袋進呈とあるが効果は高かったのか。
井戸委員	非常に良かったと思う。医療機関の中で、おじいさん、おばあさんからそのような声があった。
栗本副主幹	29年度に始め、健診自体も半分であるので合計は分からないが、3,000名ほど対象者がいた。
岡根議長	他に意見はあるか。
全委員	特になし。
岡根議長	特になければ、この議題を終了する。以上で本日の2つの議題は終了した。事務局から他に何かあるか。
事務局	特になし。
岡根議長	以上をもって、平成29年度富津市健康づくり推進協議会会議を終了する。